

あらすじ

ひきがえるのウォートンは、トウーリヤあばさんのうちにあいしいカブトムシの砂糖菓子を届けに行く途中、恐ろしいミミズクにつかまってしまいます。ミミズクの巣に連れていかれたウォートンは、5日後のミミズクの誕生日のごちそうにされてしまうことを告げられます。

ところがウォートンは、巣の掃除をしたり、あいしいお茶を淹れたり、ミミズクの話に興味を持ったりと、前向きでへこたれません。孤独で他人を信じることのなったミミズクも、ウォートンと話すひとときがだんだん楽しみになってくるのですが…

こっそり作っておいた脱走用のはしごが見つかってしまい、ふたりの関係は決裂。ウォートンは助けに来てくれたネズミたちと共に、ギリギリでミミズクの巣から逃げ出します。

ところが逃げる途中、ミミズクの悲鳴が。見ると、キツネに襲われ息絶え絶えのミミズク。ウォートンは、無我夢中でミミズクを助けるためにキツネに向かってゆく…!

ウォートンはモートンの作る料理が大好き！

『火よう日のごちそうはひきがえる』は、冬の真っ最中に、あばさんの家まであかしを届けにいこうと思いつつ、ちょっと迷惑なほど行動力をもつたひきがえるのウォートンのお話です。雪の中を精一杯の厚着をしてスキーにのつて、いくウォートンの様子は、おかしくもあり、かわいくもあります。

そんなウォートンが、みみずくの火よう日のごちそうにとつかまってしまうのですが、ここでもその行動力がみみずくをまどわせたりします。

一緒にいる間ぐらいは、気持ちよく暮らしたいというウォートンの、生きることをあきらめないひたむきさが、自分の名前さえあつたのかどうか忘れてしまったみみずくの暮らしを微妙に変化させていきます。

携帯電話やメールやインターネットなどで便利になつたぶんだけ、実際にふれあうことが少なくなつたような時代に、食べられるかもしれないという緊張感の中でお茶を飲みながら話すみみずくとひきがえるの何気ない会話の中から生まれてくる不思議なふれあいや、理屈では言えないような思いが、観る人のあたたかな

ほんとうのごちそうになれるようだな
思っています。

「火よう日までのお客様、だからな」ミミズクに捕らわれるウォートン！



そして、運命の火よう日がやってくる…！



脱出用に作ったはしごがミミズクに見つかってしまう！



助けにきてくれたネズミたちと決死の脱出



とちゅうでネズミとの交流



ウォートンはモートンの作る料理が大好き！

ほんとうの ごちそうは…

演出 幸 晃彦



このミミズクの羽を使って
とんでにげるんだ！



ミミズクのお部屋をあそじあそじ♪



どんな逆境でもあきらめないウォートン